



今年度の校内研究について

研究主任

今年度は、国語科「**自分の思いや考えを表現する子どもの育成 ～書くことを通して～**」をテーマに校内研究を進めました。

なぜ、この研究テーマに設定したかという、昨年度の学力・学習状況調査で以下のような結果だったからです。

【国語】

問題形式	対象問題数				
	富士見台小学校				
	東京都(公立)				
	全国(公立)				
選択式	10	75.8%	73.0%	69.9%	
短答式	2	74.6%	63.1%	59.7%	
記述式	2	64.0%	63.8%	64.6%	

本校の正答率は、選択式、短答式の問題は、東京都、全国よりも高いのですが、「記述式」の正答率は、全国の正答率を下回りました。記述式は、「物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く」「**【高山さんの文章】**の空欄に入る内容を**【高山さんの取材メモ】**を基に書く」という2問でした。

そこで、国語の学習を中心に、読み取った内容から考えを書く機会を意図的に作ることや読み解くタイムを活用し、記事を読み、自分の考えを選択し、そう考えた理由を書く機会を作りました。

この研究テーマに迫るために、国語の学習では発達段階に合わせて、次のような手だてをとり、以下のような成果がありました。

低学年

- ・教師が見本となる文を提示し、見通しをもたせる。
- ・書いた文を発表する場を設定し(園児に小学校のことを伝える、ありがとうの手紙を渡すなど)、書いて良かったという気持ちをもたせ、達成感を味わわせる。

中学年

- ・文章を書く時に、使うと良い言葉「まほうの言葉」を提示する。
- ・友達と考えを交流し、良さを見付けたり、アドバイスをし合ったりする。

高学年

- ・教師が見本となる文を提示し、見通しをもたせる。
- ・豊かな表現ができるよう、語彙を増やすため、歳時記、類義語同義語辞典を用意し、環境を整える。

※教師が見本を書くことで、子どもがつまずきそうところが分かり、より適切な支援ができるようになった。また、書くのが苦手な児童も、こんな風に書けば良いとつかめ、全く書けない児童がほぼいなくなった。

※書いた文を読み合ったり、発表したりした時に、友達が良さを見付けてくれたり、相手が喜んでくれたりしたことで、また書いてみたいと思う児童が増えた。

また、火曜日の朝に、「読み解くタイム」を実施し、次のような活動を行いました。

低学年

- ・MIM(特殊音節 長音、拗長音、促音)の学習
(例) おとうさん、ちょう、ねっこ など、正しく書く力をつける学習。

中学年

- ・語彙を増やすための学習
(例) 肝心帳に調べた言葉、ことわざ、故事成語などを書く。

高学年

- ・語彙を増やすための学習 新聞のコラムを読み、考えを書く学習
(例) 肝心帳に心情を表す言葉を集めて書く。自分の考えを選択し、そう考えた理由を書く。

※低学年は、正しく書くための基礎的・基本的な力を付けるための学習を、中学年は豊かに文を書くために必要な力を付けるための学習を、高学年は、自分の考えやその根拠を書くための力を付けるための学習を行いました。

学校では、このように校内研究を進めてまいりました。さらに、力を伸ばすために、学校でも力を合わせ取り組んでいきます。ご家庭でも取り組んでほしいことがあります。お忙しいとは思いますが、ぜひ、ご協力ください。

【ご家庭でご協力いただきたいこと】

- お子さんと一緒に読書する機会を作る。読書記録をつけられるとさらに良い。
- ニュース、映画、ドラマなどを一緒に見た時に、お子様に「今のニュース、どう感じた。」「どこが、おもしろかった。」などと聞き、考えを話す機会を作る。